



<b>旧市街とは？</b>	<b>旧市街住民の幸せとは？</b> （住民、ミクロ目線）
<b>（街の特徴）</b> <ul style="list-style-type: none"><li>歴史ある場所</li> <li>栄えていた頃の街並が所々現存</li> <li>時代に取り残された</li> <li>老朽化が激しい</li> <li>災害に強い</li> <li>高齢化が進む</li> <li>治安（に対するイメージ）が悪い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>利便性が高い</li> <li>犯罪が少ない</li> <li>安心感がある</li> <li>地域コミュニティが活発に活動</li> <li>賑わいがある</li> <li>社会との繋がりが感じられる</li></ul>

# 街づくりの五箇条

# 「災を逃れる」

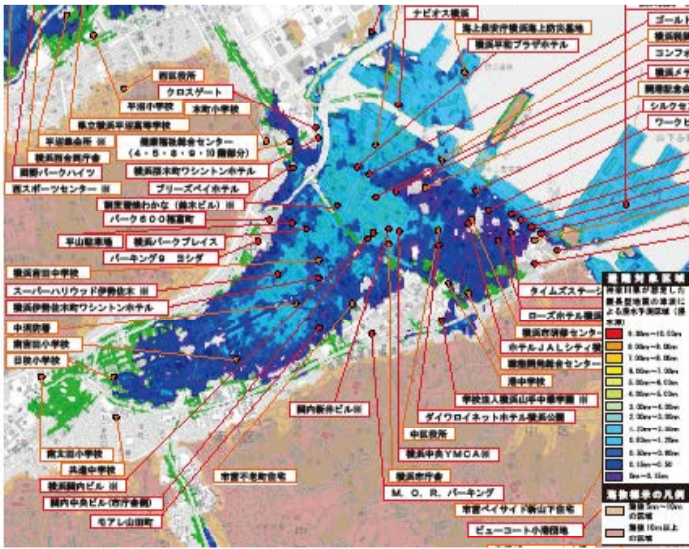
開外地区が繁栄の中心であったのはもはや何十年も前であり、現存する建造物の老朽化は激しい。また、開外地区は吉田新田を埋め立てて作られた地区であり、標高も低く、津波と液状化の被害が予想されている。各界隈の物理的な隔たりや路上駐車、放置自転車は避難の妨妨害となる。図のように、津波が発生した際は開外地区のほぼ全域が浸水し、特に被害の大きい地区では、約4.0メートルの浸水（2階建ての建物があれば水没するレベル）が生じることが想定される。このような非常に被害を最小限に留めるためには、緊急時に一時的に避難出来る避難ビルを各地域に漏れなく設置するとともに、ビルに孤立する人間を少なくするために、できるだけ多くの人が高台へ逃げられるようにする必要がある。開外地区から高台へ逃げるには、地区を横に貫く道を通るのが最短の経路となるが、開外地区は縦の軸の動線だけが強く、横に通る道は狭く通りにくいものばかりであるのが現状である。災害時に通りやすいように整備するとともに、そのような時に横の道を意識して選択できるように、普段から横の動線をより強化しなければならない。

### ○課題

- 丘への避難経路が整備されていない
- 建造物の老朽化
- 避難ビルの不足

### ○解決案

- 路上駐車 / 駐輪対策（福富、伊勢佐木モール、寿）
- 老朽化した建物の取り壊し
- 目抜き通りの整備
- 緊急時のアナウンス（伊勢佐木モール）
- 避難経路標示（伊勢佐木モール）
- 避難ビル増設
- 高架橋プレハブ群のリノベーション（大岡川沿い）



# 基本情報

## 黄金町

1667年 新田開発として入江が埋め立てられ開外地区が誕生
1859年 横浜開港に伴い、防御施設の拠点が建てられる。
1869年 湧水を利用した船舶給水業が始まる。
1872年 日本初の鉄道が桜木町駅と新橋を結び、家や商業施設が増える
1900年頃 横浜の中心部から離れた「奥座敷」
1923年 関東大震災により焼け野原に大岡川沿いの水上交通も発展
1945年 横浜大空襲により焼け野原に
1950年頃 野毛の職業安定所をめざし各地からくる労働者のための簡易宿舎
復興事業の際に区画整理。道はまっすぐに、大岡川は撤廃される。
終戦後、接収を免れたために接収された地域の人間が流入、泊所が多つくられる。
男性労働者のために飲食店、売春宿が増える。
1957年 野毛の職業安定所の移転のより簡易宿泊所は減少
1958年 売春防止法が実施されるも売春宿は残る
1960年頃 麻薬無法地帯の問題がおきる
1962年 麻薬撲滅運動
2005年 バイバイ作戦により風俗街が消滅
2008年 黄金町バザール実施、アートでのまちづくりが始まる

### 大通り公園

1973年 運河の埋め立て
1978年 公園として整備完了
1983年 ホームレスへの暴力が深刻に
1985年頃 施設が次々と撤去される

## 良い街とは？

**（都市計画家、マクロ目線）**

- 他地域と差別化出来るアイデンティティが存在
- 住民間、界隈間の繋がりが存在
- 子供から老人まで暮らしやすい
- 住民が地域へ愛着を持っている



黄金町・日ノ町・御町公園（3つ合わせて黄金町と呼ばれることが多い）
かつては麻薬、売春、ヤクザの町として名を馳せていた黄金町だが、2005年の「バイバイ作戦」によりこれらは一掃された。しかし、昔のにぎわいは失われ、住民には過去の劣悪なイメージと閑散とした町のみが残されることとなった。現在、「ちよんの間」だった場所にはアート施設が入っている。地価が安いことから新たなマンションが徐々に増えており、この町は新たな一歩を踏み出そうとしている。

小学校
黄金町(Koganecho)

大通り公園
運河を埋め立ててできた公園。都心部緑地整備事業の一環として整備された。
しかし1980年代になると寿町から溢れ出たホームレスが公園に住み着くようになり、そのホームレスへの暴力が問題になる。それ以来多くの施設が大通り公園から撤去され、現在のような閑散としたただ広いだけの公園となった。

# 全体コンセプト

# 旧市街を一つに～活かす、繋ぐ～

# 「繋がる」

大きく分けて、地域と地域との、地域と人との、人と人とのつながりという3つの意味を込めた。

### <地域と地域>

開外地区は面積が広く、大岡川沿いや伊勢佐木モール、大通り公園等魅力的な界隈は多いが、治安に対するイメージの悪さや各界隈の狭間に存在する風俗店などの存在により、それら魅力的な界隈間の移動が活発とは言えない。過去のように横浜の中心ではなくなった現代において各界隈の活力を維持するため、また防災時に内陸側ではなく、野毛などの山側に逃げやすくなるために地区と地区のつながりは必要である。

### <地域と人>

開外地区はその歴史から最も横浜らしい場所と言える。しかしながら、その歴史を知らない人が増えていて、さらに他地区から引っ越してくる人も多くいる。そんな人々とこの歴史ある開外地区を繋ぐ必要がある。

### <人と人>

各街が様々な特徴を持っていることから、開外地区には様々な人が住んでいる。古くから住んでいる人や新しく引っ越してきた人、高齢者や子供、生活保護者や浮浪者、さらには外国人。全ての人たちが関係する必要はないが、ある程度同じような属性の人々とのつながりは住民にとって必要である。

### ○課題

- 各界隈間の人の対流の不足
- 大通り公園による断絶
- 風俗による断絶
- 人と人との繋がりが生まれ得る空間とプログラムの不足

### ○解決案

- 目抜き通りの整備（街路樹や花壇の整備による連続性向上、路上駐車車の撤去や駐輪場の整備による駐輪数削減）
- ラジオ体操、料理教室といった住民参加型プログラムの提案とその空間の整備（寿町）
- 道具の増設やベンチの整備といった交流の場整備と祭りの開催といった住民参加型プログラムの提示（大通り公園）
- 高架橋のプレハブを学童にリノベーション（大岡川沿い）

福富町
福富町は風俗街の抜け道をついて、多くの風俗店がつくれ、現在でもその多くが存在している。また、風俗による悪評を気にしない韓国人を中心とする外国人がこの地域に次々と店舗を出店し、「横浜福富町コリアンタウン」と呼ばれている。近くには住宅も存在し、風俗、住宅、韓国人街が混ざり合っている。

伊勢佐木長者町
16

寿町
GHQによる接収が解除されて以来、寿町の土地の多くは韓国人に買い取られた。やがて職業安定所が寿町に移ってくると多くの簡易宿泊所が建てられ、日本の3大ドヤ街の一つとなった。1970年代に港湾労働者の需要が減少してからは職を失った労働者が安宿に住み着いたり、ホームレスと栄えたりしており、町は異様な空気を持つようになった。現在は福祉施設や福祉団体が多く存在し、福祉の町となりつつあるが、ドヤ街という性質上何かしらの事情を抱えた人々が依然多く、住民の85%が生活保護受給者で、6割が60歳以上となっている。他にも麻薬や売春が現在でも横行しており、寿町の抱える問題はとても大きなものである。

### 伊勢佐木町

1667年 新田開発として入江が埋め立てられ開外地区が誕生
1867年 横浜開港に伴い伊勢佐木2丁目に吉原町遊郭誕生
1871年 吉原町遊郭焼失
1873年 興行場が開かれ、大規模も催される興行街となる
1882年 永真町遊郭誕生
1911年 オデオン座開館
1915年 横浜駅が移転
1923年 関東大震災により焼け野原に
1925年頃 奇席や芝居小屋が増える
1935年頃 曙町など、遊郭周辺は風俗街
1945年 横浜大空襲により焼け野原に
1950年頃 福富町はまかまこ兵舎に
区内から遊郭の通り道として伊勢佐木モールが繁華街にGHQによる土地接収

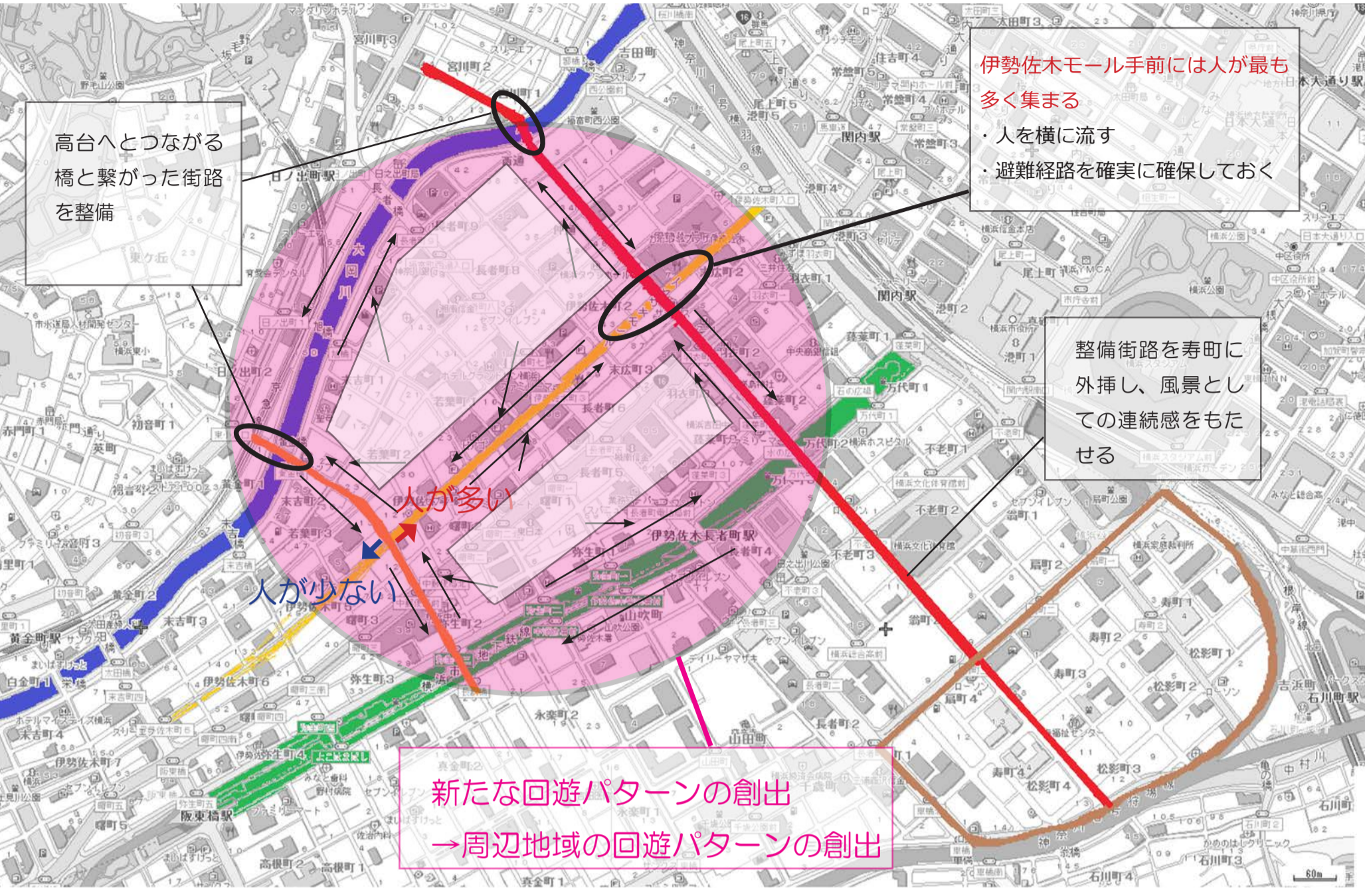
1951年 接収解除
1958年 売春防止法により全遊郭閉鎖
1966年 ソープの営業禁止除外区域のため福富町にソープが増える
1978年 歩行者天国ができ、イセザキモール1、2丁目が現在の形に
1982年 3、4丁目もモール化される
1984年 風営法制定
1993年 病院の営業停止により曙町にヘルスが増える
「緑の軸構想」により大通り公園完成

寿町
材料卸業者、港湾労働者の暮らす下町
1945年 GHQによる土地接収
1955年 接収解除
1957年 職業安定所が移転してくる
1970年頃 コンテナの普及により港湾労働者の需要が減少
1973年 オイルショック
1980年 外国人労働者が急増
2003年 ホームレス自立支援施設はまかま設立
2004年 寿福祉プラザ相談室設立
2005年 ヨコハマホテルズヴィレッジによるホテル化
2008年 寿オ尔特ナティブネットワークによるアート活動
在日韓国人により簡易宿泊所が多く作られ、ドヤ街を形成
日雇い労働者の仕事は激減



# 問題解決策

大岡川沿い、伊勢佐木モール周辺、大通り公園、寿町の4つの地区において5つの方針に基づいて重点的に整備を行う。縦の軸線での動線がメインのこの関外地区において、過去の道路である細い路地の多くはそのまま残す一方で、横に貫く街路を目抜き通りとして2本整備し(図の赤とオレンジの街路)、4つの地区を結ぶことで、関外地区全体で連携した計画を実施する。2本の街路を、現状より魅力的で通り易くすることで、主に歩行者の新たな回遊パターンを創出し、既存する風俗などと共存しつつも住民が日常的に安心して移動できる空間をデザインする。また、日常的によく使用される街路となることで、非常時には高台への避難経路として人々が認識し、速やかに避難出来ることを目指す。



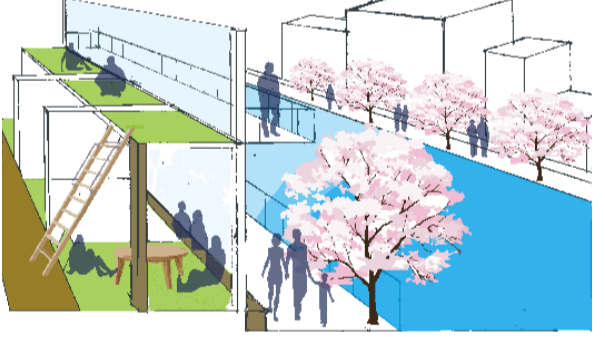
# 大岡川沿い

- 解決策
- 将来予想

初黄日地区は将来的に人口が増え、子供、高齢者が増加すると考えられる。この地区には、狭い旧「ちよんの間」が数多く連続して残っており、地震や火事といった災害に対して脆弱であるために対策が必要であると同時に、かつての風俗街としての歴史の痕跡でもあり保全が必要なものでもある。高架下は未使用の部分も多く暗い雰囲気となり、地元住民の体感治安を悪化させている。また現在、一部「ちよんの間」跡地にはアート関連の団体が入っているが、将来的に撤退が始まり、住宅地化すると言われている。地域の特徴としては大岡川沿いの桜まつりが毎年開かれており、その時期は外部者も多く訪れ、地区が活気づく。

この地区は2035年に向けて「住みやすい街」を目指す。これは現在の住民の方針である「安全・安心の街づくり」を踏襲し、さらに将来の住民増加を確かなものとする。

(リノベーション) 建物のリノベーションは、耐震性・耐火性のない建築物を補強・改善することによって行う。この際にそれぞれの家が狭く、いくつも連続していることにより建物の利用方法が限られている状態を解消するため、いくつかの家の間の壁を取払い、各家を建物内でつながる一本の廊下をつくる。こうすることでスペースが広がるため利用方法は法が、学童保育や地元住民の憩いの場として使いやすくなる。また、旧「ちよんの間」特有の狭い空間は子供にとっては秘密基地のような好奇心をくすぐる場所となりうるだろう。



# 野毛町

非常時にこの街路を利用する際は、高台である野毛山公園まで人々を誘導する必要があるため、野毛町まで街路を整備する。街路の野毛町を通する部分は細く分りにくいように、一段上る狭い階段に通じている。土地利用上階段幅を拡張することはできないが、階段に通じる道路面の色を変え、街路をわかりやすくするとともに、階段をスロープにして速やかに登れるようにする。

階段を上った地点からは、右折して大通りを通って野毛山公園へ避難するのが最短経路であるため、階段を上った地点に図のように右折を促す標示を設置する。



# 大岡川

# 福富町

# 福富町

この街路の福富町を通る部分には、道路上に白線で囲まれたパーキングエリアがあり、福富町の商店経営者が、違法ではあるが料金を払わずに路上駐車をしているのが特徴である。路上駐車はこの街路に対するイメージを悪くし、通りにくくしている原因であり、災害時の避難の妨げにもなる。そこで、まずパーキングの白線撤去し、福富町内にある有料の駐車場スペースの一部を買い取り、福富町の商店経営者に駐車スペースとして割当て、この街路における路上駐車をなくす。さらに、街路沿いに木と花(桜や草花)を植え込み、車庫スペース、歩道幅の広い歩きやすい街路をデザインする。木花の世話と路上駐車取り締まりは寿町住民が行う。また、この部分は韓国料理店をはじめ、外国人商店が数多く存在し、外国人の滞在という福富町の特徴をよく表している。街路を歩行者にとって通りやすくし、外国人商店に人を呼び込むことで、福富町で商う外国人と外部の人々の交流を深め、相互理解を促進することも期待できる。



<福富街路> 街路の木と花の整備と共に路上駐車を整備を進める。非常時には避難路として機能。街路沿いに外国人商店が立ち並ぶ通りを目抜き通りにする事で、外国人との連携を促す。

# 伊勢佐木モール周辺

- 歴史博物館兼地域センターの設置
- 避難経路のアナウンス、掲示

関外地区は、今でこそみなみ地区に賑わいを奪われているが、横断の発展を支えてきた歴史を有し、かつての痕跡が数多く残存している。関外地区を何処にでも有る前にしないために、歴史を伝承し、痕跡を保存することが不可欠であると我々は考える。歴史を伝承し、保存された痕跡を周知するために、関外地区の中で最も人通りの多い伊勢佐木モールに「横断歴史博物館」を内蔵した地域センターをつくる。具体的な建設場所は、オレンジの整備街路の手前のブロック。現在は駐車場となっている場所とする。少しでも多くの人に博物館を訪れてもらうために博物館の機能は建物の2階で扱い、1階には来訪者の寛げるスペースと地域のイベントや商店の宣伝などのエリアを置くスペースを設ける。また、伊勢佐木モール周辺には古くから残っている老舗店舗が多数点在しており(図のプロット参照)、これらは関外地区の痕跡として、これからも保存していくべきである。そこで、「老舗店マップ」を作成し、1階でピラととに配布する。さらに、地域センターの裏に駐車場を設置することで、自転車による訪問もしやすくなる。(図) (製)

伊勢佐木モールは関外地区の中でも最も多く人の集まる場所であり、津波発生時の高台への避難経路への最大限の誘導が必要である。伊勢佐木モール利用者に、非常時には横の街路を利用して高台に逃げるという認識を高めてもらうために、モール内での避難経路の標示や、アナウンスを行う。(図)

伊勢佐木町6丁目と大岡川の間の住宅地には風俗店が点在している部分が存在する(図プロット)。この部分はこれらも住宅地化が進むと予想され、住民のためにも、また大岡川沿いの美しい景観保護、伊勢佐木界隈の体感治安向上のためにも、図のように風俗店が点在している喫町(通称:ハマヘル)に移転し、住宅地と風俗のゾーニングを行う。(図)

# 大通り公園

- 若者の溜まれるスペース
- 遊具スペースの拡張、増設

大通り公園に親子連れだけでなく、若者の溜まり場としても溜まれるスペースをつくる。これは、様々な年齢層が集まれる空間をつくり出すとともに、現在遊具スペースを利用しているような年齢層に、成長しても離れて行かずに、長期的に憩いの場として利用してもらうという目的がある。

現在3列ある木を2列にすることで見通しを改善する。さらに、現状一箇所しか存在しないイシを増設、ベンチも設置することで住民、特に若者を集める。監視の目が増加することで、監視の目が増加、体感治安は改善、地域間/地域と人/人と人の繋がりも向上する。ベンチは4つの長方形のものを組み合わせて木を囲み、非常時は1つずつ動かして利用できる。(製) (図) (治)



# 伊勢佐木町

- 遊具スペースの拡張、増設

既存の遊具スペースや、大通り公園の横に位置する山吹公園という遊具のある小さな公園では多数の子供が遊んでいる様子が見られ、子供が遊ぶための遊具のニーズは高い。既存の遊具スペースの拡張、オレンジの整備街路沿いに遊具を造設することで親子連れにとって魅力的なスペースをつくる。

<大通り公園(遊具)> 現在は一地点しか存在しない遊具設置場所をもう一地点を作る。床は砂場にする。多くの子供が遊んでいる。現在の遊具設置場所は多くの子供連れが訪れ、遊具のニーズが存在する。大通り公園に訪れる家族連れを増やすことで、監視の目が増加、体感治安は改善し、地域間/地域と人/人と人の繋がりも向上する。(製) (治)



大通り公園全体において、樹木は公園の両端のみに並べ、現在樹木が3列に並んでいる部分は真ん中の樹木をすべて撤去する。これは、見晴らしを改善することで体感治安を向上させると共に、災害時に避難活動の拠点として可能な限りスペースを確保するためである。以上のハード面対策だけでなく、赤の整備街路沿いの箇所では地域住民のラジオ体操を行う。赤の街路を挟んだ2ブロックを夏祭りを行う、二つの整備街路の間を区間クルスマスのイルミネーションを行うなど、整備街路と合わせて人通りの多い場所でイベントを開催することで、日常的に人と結びつく場所とする。

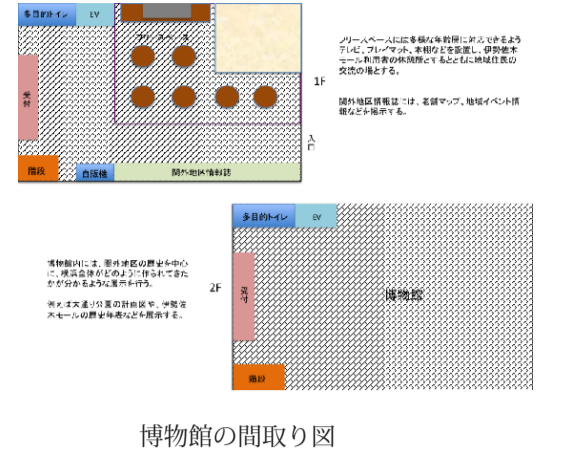
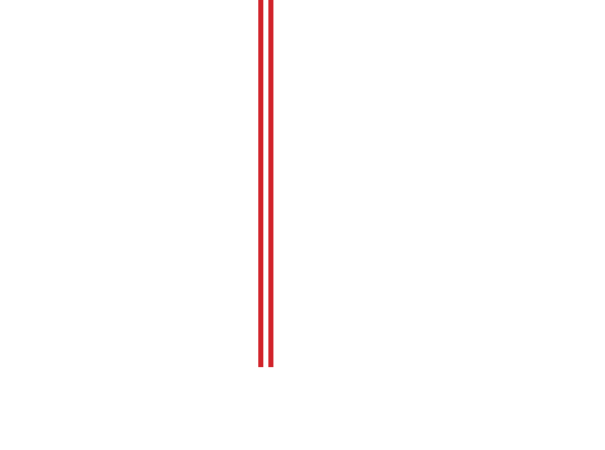
# 伊勢佐木町

<伊勢佐木モール横> 街路の、伊勢佐木モールのすぐ横(大通り公園側)には、伊勢佐木モールを訪れる人々の多くが自転車を駐輪する場所として使用しており、大通り公園への通り抜けや避難経路として使う際の障害となっている。そこで、大通り公園の整備街路沿いに駐輪場を設置し、街路での駐輪を防ぐ。また、伊勢佐木モールを訪れる人が大通り公園の駐輪場を利用することで、大通り公園と伊勢佐木モール間での人の対流を促す。



# 大通り公園

大通り公園全体において、樹木は公園の両端のみに並べ、現在樹木が3列に並んでいる部分は真ん中の樹木をすべて撤去する。これは、見晴らしを改善することで体感治安を向上させると共に、災害時に避難活動の拠点として可能な限りスペースを確保するためである。以上のハード面対策だけでなく、赤の整備街路沿いの箇所では地域住民のラジオ体操を行う。赤の街路を挟んだ2ブロックを夏祭りを行う、二つの整備街路の間を区間クルスマスのイルミネーションを行うなど、整備街路と合わせて人通りの多い場所でイベントを開催することで、日常的に人と結びつく場所とする。



# 寿町

- 老朽化建築の撤去し、公園の拡張
- バックパッカーとの共存
- 社会的役割の付与

老朽化した建物(図にプロット)は耐震性を考慮して立て壊しを行う。立て壊しによって出来た空きスペースの一部に既存の公園沿いの宿を移転し、公園面積の拡張を行う。拡張を行う理由は、「現在公園では休日に住民が集まってスポーツをしているが公園の面積が狭く運動できるスペースの拡大が求められていること」と「寿町には外に出てぶらぶらしている人が多く、そのような人々が休んで休めるスペースを創出する必要があること」である。その他のスペースには、屋根と机、椅子だけが存在し、24時間住民が利用できるコミュニティスペースなどを設置する。(図) (製)

また、安宿街である寿町には、バックパッカーが低額で宿泊できるホステルが点在する一角がある(図にプロット)。この一角においてそのようなホステルの増設を促すことで、バックパッカーを現在よりも呼び込む。バックパッカーの増加は閉鎖的な喫町の空間に外部からの刺激となるだろう。ただし、バックパッカー用のホステル地域と寿町住民の宿街地域は棲み分けをし、住民のプライベートにバックパッカーが踏み込むことは防ぐ。(図)

また、この部分は寿町らしい、閉鎖的な雰囲気を持った商店や居酒屋が並んでいる。現在の雰囲気を変えないために、オープン化を無理に進めることは無いが、寿町は将来的にバックパッカーが増えることが予想されており、これらの一部がオープン化する際に路上駐輪などが障害とならないようにする。(図)



# 街路の緑化

寿町では平成18年度から「ことぶき花いっぱい運動」という活動が行われている。これはゴミの不法投棄や路上駐輪の多いスペースに花壇やプランターを設置し、それらを予防しようという活動である。この活動の成果から、地域の景観の美化を図り、緑を増やすことは住民の潜在ニーズとして存在していることがわかった。今回の街路整備においても木と花壇を整備して寿町の美化・緑化を進める。(製) (治)

# 駐輪場の設置

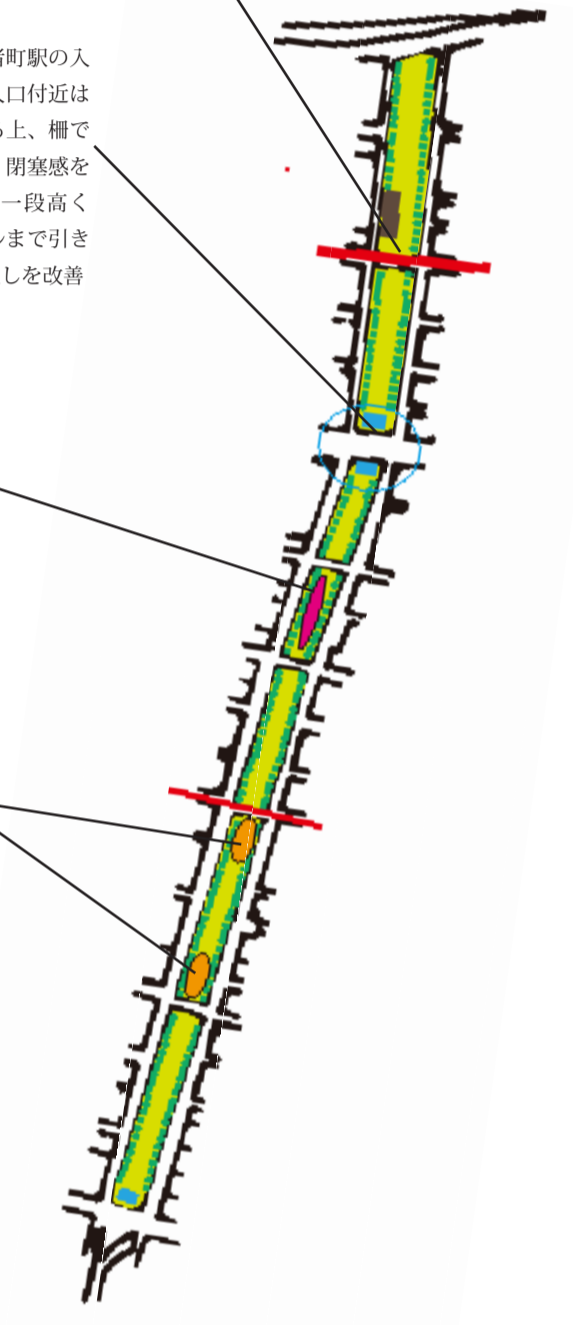
この街路沿いに存在した路上駐輪は、空き倉庫を立て壊して作った駐輪場に格納する。(治)

# バックパッカーの呼び込み

また、この部分は寿町らしい、閉鎖的な雰囲気を持った商店や居酒屋が並んでいる。現在の雰囲気を変えないために、オープン化を無理に進めることは無いが、寿町は将来的にバックパッカーが増えることが予想されており、これらの一部がオープン化する際に路上駐輪などが障害とならないようにする。(図)

# <寿街路>

かつてあった自転車は、遊うところに作られた自転車置き場に移動する。街路に木と花が植えられたことで、路上駐車も減少。木と花の世話という社会的役割を与えられたことで、寿町住民は自分と社会の繋がりをを感じるようになる。また、街路沿いの木と花は寿町外にも繋がりを持って、風景からも社会との繋がりを感ずることが出来る。花は万花と福寿草を想定している。



# 各施策と街づくり五箇条の対応図

	災を逃れる	痕跡をたどる	繋がる	体感治安を改善する	共に在る
寿町	公園拡張 路上駐車/駐輪対策 老朽化した建物の取り壊し 目抜き通りの整備		公園拡張 目抜き通りの整備(街路樹、花壇) 街灯設置 住民参加プログラム	目抜き通りの整備(街路樹、花壇) 街灯設置	バックパッカーとの住み分け
大通り公園	目抜き通りの整備	遊具設置 イベントの定期的開催 駐輪場の設置	公園整備による来訪者増加、監視の目強化		イベントの定期的開催
伊勢佐木町	伊勢佐木モールでの緊急時アナウンス 避難路を示す看板設置 避難ビルを増やす 目抜き通りの整備	博物館内蔵の地域センター建設	博物館内蔵の地域センター建設	路上駐輪の整理	目抜き通りを外国人料理店の立ち並ぶ通りに設定する
大岡川沿い	高架橋プレハブ群のリノベーション 目抜き通り	高架橋のプレハブ群のリノベーション	学童の設置 高架下にバスケットコート設置 川沿いの整備	川沿いの整備	住宅と混在する風俗店の移転